

2017年9月9日より30日までに実施したアンケート調査のまとめ速報です。
対象は化学物質過敏症の患者の方です。サンプル数は172件、設問数48。

発症は誰にでも可能性があると考えている(94%)

全快すると考えている人は少ない(5%)

アレルギーとは発症の仕組みが違うと考えている人が多い(59%)

アレルギーのように血液で「反応物質」を特定するのは難しいと考えている(85%)

シックハウス・シックスクール症候群も化学物質過敏症の症状の一部と考えている(94%)

化学物質過敏症のことを理解して診察・治療してくれる病院は少ないと考えている(99%)

発症のきっかけで一番多いのは柔軟剤などの高残香性製品(55%)

二番目は自宅の新築・リフォームや転居でシックハウス症候群を発症(46%)

三番目は排気ガス(24%)

受動喫煙が職場(20%)、家族(19%)

建物では白アリ駆除(15%)外壁塗装(17%)防水工事(11%)

農薬空中散布(15%)住宅地での除草剤・殺虫剤散布(22%)

職業関係によるものも多い

行った診療科で多いのはアレルギー科(64%)内科(46%)皮膚科(27%)呼吸器科(22%)

訪ねた医療機関数は1~5が(78%)6~10が(13%)

病名を化学物質過敏症と最初に診断してもらったのはそよかぜクリニックが(27%)

診断を受けていない人も(15%)

化学物質過敏症の患者は人口の何パーセントいるかとの質問には、7~10%が(27%)

20%程度が(20%)4~6%が(13%)15%程度が(12%)

電磁波過敏症の発症は(48%)

家庭・職場での孤立感、孤独感のある人が(59%)

衣食住での体調不良の究明はできている、大体できているを合わせると(89%)

そのうち、改善法を大体わかっているとする人が(77%)

改善があまり進んでいない人が(47%)

周囲の人に症状をほとんど理解されていないとする人が(37%)

発症時、職場に通っていて、発症後も同じ仕事をしている人は(22%)、変更してもらった人が(14%)、仕事をやめた人が(64%)

本人が感じている不調を理解している医療機関の見つからない人が(44%)

特に苦手なものの一位は香料製品の(97%)

二位はタバコの煙の(85%)

三位はペンキ・筆記用具などの有機溶剤(80%)

以下、抗菌・消臭製品の(77%)ワックス(69%)印刷物(67%)、農薬散布(67%)、

食品添加物・残留農薬(63%)再生紙(29%)

苦手な場所の一位は病院・理美容室が(85%)

二位は人の大勢いるところ(83%)

三位は電車・バス・タクシーなどの交通機関(53%)

以下、本屋・図書館(63%) お寺・葬儀場(67%) ホテル・旅館(62%)

役所などの公共の建物(56%)

化学物質過敏症について正しく学べる情報源としての希望

一位は家族、職場、学校、病院、役所などへの化学物質過敏症の説明の方法が記載された資料(73%)、居住地近くの医療機関(64%)、医学的、化学的データをまとめた紙の資料(62%)、体験者の話を聞ける場(51%)

一般の人に知ってもらいたいと切実に思うこと

化学物質過敏症が多様な反応と症状が現れる病態であること(92%)

社会生活に参加しにくい理由についてなかなか話を聞いてもらえないこと(74%)

家族・職場・学校などで孤立しがちで孤独感にさいなまれていること(59%)

確実な治療法が無いので困っていること(78%)

予防として気をつけていることに対して「神経質、気のせいだ」といわれること(40%)

診断、治療を受け入れてくれる医療機関がとても少なく、不自由なこと(55%)

食事で気をつけていること

自分が化学物質過敏症で反応するか、アレルギーで反応するかを把握しているをほとんど把握しているを含めると(79%)

農産物は無農薬・有機栽培を食べている(74%)、無農薬・無肥料栽培が(44%)

農薬・化学肥料栽培(市販品)が(38%)、無農薬・化学肥料栽培が(27%)

魚介類・肉類を全く食べない・あまり食べないが(19%)

食べる場合に気をつけているのは、抗生剤・ホルモン剤などの使用の有無(64%)

干物の添加物(63%)、魚介類の漁獲水域・水揚げ港(61%)、肉類の飼育環境(57%)

飼料が人工飼料か天然飼料か(48%)

食品添加物に気をつけている(90%)

市販の加工物で食べるのは安全に配慮している業者のもの(62%)、

自然食品店のもの(56%)、生協のもの(34%)

野菜、食品の購入場所では地域の自然食品店(60%)、生協(45%)、

自分に合った通販業者(39%)、身近にある安全な栽培の農家(39%)

購入に際して気をつけているのは、いつも何か所の購入先を確保している(61%)

自分の体調次第で同じところから購入しても食べられないことがある(39%)

梱包資材、運送業者がどうか(13%)、長期間同じ場所で栽培されたものは避ける(7%)

化学物質過敏症が身障者差別解消法の対象であることを知っているのは(23%)

役所によって、理解、対応の温度差を感じるのはとても感じる(44%)感じる(24%)

国立、県立、市町村立、大学付属、民間の各医療機関ではとても感じる(49%)感じる(22%)